

ああ、結婚！

—婚活日記—

第4回

黒田長宏

<再婚活動開始、婚活用写真>

8月6日は、再婚活動の為の具体的行為へ外出する事になる。茨城県の婚活に入会(私は再入会)の為に、Lサイズの写真が要るのだ。相手に面会して貰うために、写真の出来栄も大事になる。最初の勝負所でもあると言えよう。50歳というルックス的にも20代、30代よりも衰えていると言えるかも知れないが、年輪を重ねた印象が渋いと言われるような好感も持たれる場合もあるのかも知れない。

すぐ帰宅したいので、婚活のセンターと同じ方向の近くの写真屋をネット検索する。某ショッピングセンター内にある写真屋に行くと、近くの本店らしいほうへ行くよう言われる。行くと、別の出張撮影があるとの事で急いでいたところをぎりぎりセーフで撮影してもらった。婚活センターよりも手っ取り早いので、もし良さそうな人がいたら紹介してくれと、ほとんど無理な注文も加えておいた。言ってみるものというのもあるかも知れない。旅の恥は掻き捨てのような。スタッフのおじさん(と私が言うくらいだから60代だろう)2人が、私どもと一緒に写れば映えるからいいんじゃないかと、撮影のおばさんと私の前で言ったものの、そのジョークに対応できず、撮影に入った。婚活センターに行って再入会する日に、その前に出来上がりを取りに行くことになる。

<婚活本格的に再開する>

バレバレの面もあるが、某婚活センターに再入会して来た。私からの条件に合っていた人は500人近くもいたのに、私が条件に合う人は、2人しかいなくて、しかも年齢ルールが相手の希望の2歳差までは受けると言うので、2人ともサービスルールでぎりぎりセーフの人だった。他にも、居住地や結婚経験の有無や年収や身長などが条件として、それに逸脱している人達は条件からカットされる。ここがマッチング婚活の弱点である。弱点と言っても、それが弱点にならない人にとっては弱点でもなんでもないが、逸脱している人にとってはそれが弱点なのだ。

芸術家などには比較的多いのだろうが、貧乏でも15歳も違う人と恋愛結婚してしまう人もいる。先日のフジテレビのドキュメンタリーのワハハ本舗の劇団員の女性が20代後半で結婚すべきだと私の心情では思ったが、一緒に住んでいる男性は舞台監督の卵とかで、10万円くらいの不定収入らしい。その女性と合わせると生活ぎりぎりの線らしく、その女性の母親が将来どうするんだと心配している話だった。

離婚トラブルでの3年間は大きかった。50歳という年齢がマッチングの条件をさらに厳しくした。マッチング婚活以外にも挑戦せねばならないだろうと思っている。ぶっちゃけて言えば、告白出来ればマッチングよりも納得いく女性と再婚出来るかも知れないのに、三つ子の魂百までなのか。それがプライドでも無いんだが、抵抗があって出来ない。マッチング婚活にも、どうしてこんなに可愛くてプロフィールも優秀なのに婚活なんだ。恋愛でいくらでも会えるだろうし、告白されているんじゃないのかという人が大勢入っているのだ。わけがわからない。

<8月20日、愚痴>

婚活センターに再入会して、かろうじて2人の女性に問い合わせ中だが、それ以外は どうしていいかわからない。職場も女性が多いと言うのに、大体うまく立ち回れる性格というか人格の人間だったなら、こんなに苦労していない。恐らく、他の男性もそうなのだろう。気楽に言い出せないし、告白出来ない男がいるのである。逆

に口説きまわる男は結婚は軽く出来るが不倫がばれ離婚で慰謝料請求されるような目に遭うのだろう。ところがまた口説くのは得意で心労にならないから繰り返してしまう。私自身はそういう男性に生まれなくて良かったと思う。家系の絶滅の不安と隣り合わせではあるが。そして社会は家という知恵を封建的だとか悪い面ばかり言って崩して来た。

些細な事だが、昨日職場の内部の配達で、久しぶりに居た女性から、「久しぶり」と言って来たので、「そうですね。はい、はい」と言ったら、通りかかった年輩の女性スタッフが、「そんなはい、はい言ってるんじゃない、嫁さんも来ないよね」と、私に恨みも無いだろうに、適当な事を言って通り過ぎた。

そこで気付いたが、そうした年輩のおじさん、おばさんが縁結びに協力してくれれば良いのに。ここ3年は離婚トラブルで脳のセンサーがそっち一色だったが、もう少し魂胆を丈夫に冷静にみたら、ちょっとずれていてもチャンスは漂っているような気もしないでもないのだ。こういう空気感を察するのを記録するのも、勘違いかも知れないが、大切かも知れない。

私だけは無い。50歳から、出産可能な女性に結婚して貰うのは今の時代、私の状態で、とても簡単な事ではないのだ。だとしたら、他の男性も難しいし困っているだろう。自分だけが助かってはいけないうら。

<8月23日>

婚活センターの2人応募も、1人はダメで1人は休会していたとなり、またゼロに戻る。勤務先から帰宅して、何気なく某サイトの、女性は20歳だと12万個も卵子があるが、40歳だと5千個に減ってしまい、日々30から40個減って行くような話を観てしまい、私より10歳年下でさえ40歳なのにと、少し絶望的になり、母親にどうしてくれるんだと怒鳴ってしまった。

母親のせいではない。私自身が情なかったのだが。八つ当たりだ。母親も力はない。しかし、思えば加藤貴子という、同世代のアイドルだった人が、46歳で第2子出産というニュースのサイトからの豆知識だった。思え

ば、振り回された元妻も60歳の男性の子を41歳で出産したのだと思う。可能性ゼロでは無い。だが、高齢出産で女性が辛いのを心配して、一応38歳以下の線で妥協しない方向を決めた。明後日また婚活センターに行くが、該当者がいなかったら相手の年齢を引き上げないで、その日は終えてしまおうと考えているところ。

<8月25日>

午前中漢方薬をもらいに某医院に行く。スーパー銭湯で千円カットをして、県内を1時間半以上かけて大移動して婚活センターに向かう。38歳以下で妥協しないとメモ書きして置いたのに、マッチングして貰える該当者がなく、妥協して40歳まで対象年齢を上げ、2人に応募する。私自身が離婚経験者になってしまったのに(3日で元妻は出ていったのに)、初婚相手のほうが良いという観念が抜けなかったが、該当者がいないので仕方なく(差別というわけではなく、実際の心理を正直に書くのが誠実であり事実だから)第二希望は再婚の人にした。出産を考えなければ、もっと年齢が上の人でも良いのだが。あと、それでも誰でも良くはなくてルックスの良し悪しはラインを引いてしまう。私の性格上、言っても収穫無しは出来なかった。妥協してでも応募可能ならするほうを選んでしまった。それでも真剣に50歳以上の人でも子供が欲しい場合も県の婚活は考えて欲しいと担当者のNさんに訴えた。Nさんは話しやすい。

<9月3日見合い型の結婚相談所に連絡する>

休日。午前9時半。台風が湿度も飛ばして行ったようで、晴天ながら湿度が少なくなって快適な位である。まだ半袖半ズボンで扇風機を回しているが、早朝は扇風機なしで寒さを感じるほどだった。

DVDで小津安二郎の『晩春』を観終えてから、3年前に元妻がやってきた頃に、ネット上でお世話になっていた婚活会社の女性社長を思い出し、その頃は女性貞操観を大切にしようと純潔指輪。ピュリティリングについて紹介して、賛同を得ていたのだが、3年振りにメッセージを送った。婚活費用は。50歳からでも大丈夫か。私のような者でも大丈夫かなど。回答を待つ。連絡が送られてきて、「可能性は大いにある」と書いてくださる。

テレビにも出演するようなアクティブな人で、東京だが、茨城からだとしても、先入観を持たないほうが良いと思うし、日時指定を受けたら、伺う。簡単なプロフィールを添えて、9月の都合良い日を3日分、お伝えする。今回は、県の婚活よりも、女性社長のほうが可能性が高いような気がしているところ。

<9月13日>

気になる情報には気が付くもので、茨城新聞からBS日テレでは夜に離婚裁判のドキュメントがあるというので録画。体外受精が15年調査で42万件以上で過去最高だったそう。年齢とともに体外受精の成功率は下落し、出産成功が30歳で約20%、35歳で約18%、40歳で約9%、42歳で4.5%。妊娠したが流産が、30歳で約17%、35歳で約20%、40歳で約35%、42歳で約46%。これを読んで、私は未だに実子を諦められず、35歳から40歳と、私より10歳から15歳は年下の人でないと人工授精でも出産は難しいかと不安を覚えた。事実である。

<9月29日>

勝負に出た。県の婚活センターであまりにも条件の一致する人がいなくなってしまうため、(主に私の50歳の年齢がハンディキャップ)別の、一般の結婚相談所に行った。私が落ち着くまでは公表できないし、したら宣伝にとられてしまうかも知れないところが難しい所なので控えるが、(結婚出来たら、ぜひ紹介したい気持ちになるだろうし、宣伝であっても意味はあるかも知れないのだが、まだ成功もしていない)片道3時間はみないといけない東京都の相談所であるが、ネットで社長を知っていた。かなり多数の縁組に成功してきたり、かなり有名なテレビ番組に出演した事もあり、智恵をいただけるのではないと思ったのと、該当者を増やさないと、数を打たないと当たらないという思いからである。良心的な価格設定だと思うが、茨城県の婚活から比べると当然高額にはなる。だが相場だと思う。業界のベテランの社長のため、結婚相談業界の状況の週刊誌レベル(あまり固く取りすぎないでいただきたい)のような話まで教えていただいた。これでなんだか強気になれる気もし

ている。午後からの面談だったので、午前中はオープンしたばかりの新宿区立漱石三房記念館に行った。50歳を超えてから漱石作品は6作品くらい読んだり、朗読を聴いたりしているが、もっと把握したいと思う。漱石自身が性倫理に真面目だった事や作品の意味も考えていくべきであると思う。漱石の肖像の絵葉書を小さな額に入れて部屋に飾った。

<9月30日>

昨日帰りが遅くなったり、日頃使わない頭脳を使い、午前中は頭が固まっていた。連休にしておいて良かったとつくづく感じる。外出は連休前半に集中したい。そして、昨日の結婚相談所の入会申し込み作成から投函、入会金の投函などをした。既に30代にして結婚を諦めてしまっているように見える人達も周囲にも幾人もいるようだが、諦めてはいけない。お金はまた出てしまうが、結婚相手は本当はお金で換算出来ない。

<10月8日>

ようやく、東京の相談所のネット検索が出来るまで設定した。しかしもう夜になってしまった。連休なので明日本格的に始めよう。ただ、マッチングが厳しいといないが、マッチングが大まかでも断られてしまう確率は高いかも知れないなどと贅沢と言っても良いほどの欲が出る。私の場合はほとんどルックスが申し込みの決め手なんだなと思わせる。最初から妥協するのも変だろうから、私性質でどうしようもないからルックスを優先して選べるといいのだが。年齢年収その他ハンディキャップだらけの私ではあるが。

<10月9日 ネット婚活開始する。>

東京のネット婚活を開始した。ここからは下手に書くと誰かから訴えられたら離婚トラブルに続いて悲劇的にダメージが大きすぎるので、慎重にかかねばならない。契約したところのネットワークの2か所からそれぞれ12名と1名となぜか人数が偏ったが、13名応募する。子供が諦められず、強気で在住県と近隣県の2県から33歳から38歳までの検索を行った。最初から弱気では変

だから、最低でも12歳年下に応募しているという強気だったが悔いを残さないためでもある。

しかし婚活は初めてでは無いのだが、やはり美人で申し分ない人がたくさん婚活に出てきて、どうして婚活をわざわざする必要があるのか不思議である。サクラで出会い料だけ取られるはずもなし。そう書くのもかなり勇気を要するが真面目な冗談である。今までの婚活での選択もそうだったが、美人で申し訳なくても、とても手が届かないと思う人には、断られるのは無料であっても最初から出せない。それを考えたら最初からどんな容姿や性格の人でも29歳には応募していないのだから、どこまで強気なのか弱気なのかというのが私自身の先入観を含めての態度が示される。

50歳でも子供が欲しいという条件が大きく左右しているのかも知れない。それに今までもそうだったが、容姿、ルックスを重要視してしまう。だがかなり年下だと太っているとかちょっと同年代との婚活だと劣って見られるかなというような人も応募したりと最初からテクニック(のつもり)を使ったりした。これらはふざけて書いているのでは無くて、ある意味、有意味な記述かも知れないと思っている。だいたい、50歳でこうして挑戦するかしらないかで選別が現れてしまっていると思う。対人援助というより自分援助でありながら、こうして悪条件に浸りながらも挑戦する事が、対人援助の資料になると思うのである。また、ある意味贅沢かも知れないが、検索の面白味もあるものの、けっこう人数はある程度出てきたので検索は疲れる。本当は全く一人ずつ仲人さんに選んでもらって行く方法のほうが、欲張りにもならず良いかと思っていたのだが、自ら検索する仕組みで取り組んで欲しいと言われたので、そうしたわけである。応募すれどもすれども進展なしは既に経験済みではあるものの、この現実から何かを感じるのも人生で無駄にしたくはない。だがそれも確率で表せるものではなく、突発的に出会ってしまう場合もあるのが人生の不思議だ。と思えるなら良いなあ。

<10月12日>

二度めのネット開き。既に1人から断られていた。あと12人のほうがまだ動きが出ず、システムの影響だろうと思う。きっと何人も断っているはずなのだ。怪しいところではないだろう。だって社長が善いと思っているネットワーク厳選なのだから。婚活の社長は心配して親に言うところになってしまいうから一人でやれと言っていたのが少しわからないが、母親と仲良くなれそうな人でないといけなし、疲れないと言うし、71歳と19歳しか違わない母親と一緒にネットで観て、3人応募を追加した。

<10月18日>

ネット婚活。36人応募追加。前は13人中11人にお断りされている。合計49人に応募した事になる。一体何人応募すれば気が済むのか神様のみぞ知るか。ただ、子供を諦めていないので、最高齢でも38歳という強気でやっている。それでもいろんな人がいるからやってみないとわからないし、妥協しすぎても嫌になってしまうし。よくわからないし。いいや。

<10月22日>

既に天候が荒れ気味だが、夕方から明朝にかけて強い台風がやって来る。その中でネット婚活。

今日も実子を諦めておらず、38歳以下の人を探し続けるが、34歳以上の人からにする。東京の大学卒女子は気が引けるのもあり、さらに12歳も年下から探しているし、応募していなかったのだが、該当者を探し切ってしまったような所から、恥のような気さえするが応募した。応募限度数はまだだいぶ余裕がある。スタートから、93人に応募して33人却下だが、今までのマッチング婚活だと最初から年齢制限が厳しいのでやったら月に2人出れば良いくらいだったから、このネット婚活はやっている意義はあると思う。というより、そう信じてやらなければならない。ある意味、自分が思う常識を超えている人もいると信じてやるしかない。だが、私から相手へは93人でも、相手から私へは一人もいない。

<10月27日>

ネット婚活を続行する。現在まで断られたのが60人。合計99人に応募した。実子を諦めていないため、それが固定観念になっていたが、母親の助言を聞いてしまい、妥協な気がしたが、38歳までだったのを42歳まで相手の条件を広げた。けっこう写真写りの良い人もいて、40代以上を20人くらい追加してしまっただろうか。しかもその人が<子どもが欲しい>と登録してあるのだから、子供を諦めていないわけだし、高齢出産になると相手の身体が大丈夫なのかとか、確率的に少なくなっていくのではとは思いながらも、12歳年下にこだわっていたら、いつまでたっても誰も応じてくれないかも知れないし、42歳に広げてさえ、誰も来ないかも知れないし、試行錯誤しながら、休日に応募を追加している。数日前に、一人だけ私に応募が来たが、47歳の中国人の再々婚者だった。実子が欲しい年齢と再々婚と言われるとまた離婚になったらという不安もあり、申し訳なかったが断った。しかし一人でも応募が来たのは有難く思った。

<10月31日>

今日46人ネット婚活を追加した。返事のない人が今日の人も含めて69人。断られた人が75人。

ここまで露出しておきながら、私自身の固有の条件は50歳なのは出しているが、年収は平均より低いでであろうことくらいしか書かないとしても、そういう個別条件はある。私をもっと年収があれば、もっと簡単だったかも知れない。年齢は当然なのだろう。そして、最初の条件を緩和して、34歳から42歳までで、北海道から中部東海までで検索した。

<11月3日 考察>

この時点で、薄々考えてはいたが、マッチング婚活形式だと、比較が大勢出来てしまい、負け続けの人が出てしまう。私など100人に応募して断られているのに、有難いことだったが1人来た。中国人で再々婚以上の女性で47歳。子供が欲しいという私の要求とマッチが難しいが、ほかの人は来ない。やはり婚活は、お見合いのように、だれかほどほどの基準だけ満たしていたら、一人と一人を特定して、そこから妥協しながらやる方法が合理的、効率的で可能性が最も高いと想像している。

マッチング形式だと下手なナンパ師が撃沈を続けているみたいで、気分が減入ってくる。お見合い形式が減り、自由な選択が逆に競争を生じさせて、勝ち組ばかりに人が集まってしまい、勝たない人が取り残されるという絶望的な方法なのではないか。と思いながらも、昨夜も応募を増加させた。このように何十人も応募できるほど普遍的に選べるのだから特定の人がほどほどに一人いれば、そのほうが確実なのだ。なぜそうした婚活がないのだろう。さらに考えていけば、婚活を活用しない出会いでも、気楽に声を多くかけられるような人のほうが有利で、その有利な人たちと女性たちが交際している間に、不利な男たちは取り残されてしまうのである。(実は女性もそうなのかも知れない。)だから友人の紹介というのも聞かすが、そういったお見合い的な、ほどほどの特定の人と比較せずに交際する方法が、倫理的でもあると実体験しながら思うのである。

<11月7日 高齢結婚と子供>

茨城新聞が『婚難の中で』というシリーズを掲載して2回目。65歳の新婦と64歳の新郎が2013年の12月に結婚した。高校の音楽クラブの先輩後輩で新婦は新郎の憧れだった。部員が亡くなったための同窓会がきっかけであった。現在も仲良しで一緒に手をつないで写真に出ている。こうした本人同士が楽しい事例もかなり遅い結婚にもあるのだろうが、私自身の固有の問題として、50歳でも実子が欲しいという面がある。だから全国的な本格的婚活を多額を支払い続けているが、相手の女性の年齢制限があるので、同級生付近は生理的に子供の観点から候補として放棄している。実子が欲しいという観念がなければ、俗に美魔女などと言われてきたが、同級生付近でも素敵に思える独身女性はいる。新聞は多様化した結婚で晩婚も紹介しているが、実子は早期でないとなかなか不利な条件となる。

<11月14日>

婚活会社への訪問で状況。社長にはっぱをかけてもらう。ほかにも話はあるが、マガジンに出していいか聞かないでしまったので、一つどうでも良いような良くないような事だけ書くと、社長によると女性もイケメン好みで

男性以上かも知れないとの事で、一般論と違うと思った。男性も女性も容姿の好みは大きいということだ。今より100倍応募しなさい。甘い。ぬるま湯です。ときつこく言われた。女社長だが、有難い事である。推薦の人も何人か指摘していただいた。恋愛結婚全盛だが、人によっては導入してくれる人に押されて結婚できる人もいるはずで、その偏りが現在の結婚難の問題を生んでいると思う。だいたい、相当婚活にしても人によってだとはしても、応募しないと振られ続けるのだから、挫折する人が出てきてしまうのは当然だと思う。忍耐力がいるのだ。就職活動と似ているのかも知れない。職場だろうが、すすめられないと思うが、道端でさえ告白というか誘ってしまう事ができる人ならば、最初からこうした記録はなかったかも知れない。しかしどうしてもプライドなのかなんなのか、恋愛できないのである。婚活のほうが心理的負担はない。ただ、成就するかどうか一向にわからない面での不安として結局心理的負担はある。早速推薦の人たちにも帰宅してネット婚活だから応募した。30人くらいかな。

<11月18日>

もうネット婚活で250人以上に断られている。これは経済格差と同様に、人によって極端に違うのではないかと予想する。きっと何人も応募に応じられる人もいるはずだ。100人と見合いした男もいたと聞いた。これを書くといかにひどい男に思えるかも知れないが、それはこのマガジンに写真や年収その他を掲載出来ないの具体的に表せない。経済で比喻すると格差のある人にばかり応募しているんじゃないのというものもあるのかも知れないが、就職と同じで、これではよほど気を長くしないと人間不信になるのが日本の婚活の状況だろう。もちろん、こんな私でも応募しない人もいるのだ。中国人で再再婚希望の47歳の女性だけが応募してくれたが、応じられなかったのもある。ただ応募してくれたのは現在までその人だけである。こちらからは数百人も応募しているのに、誰も応じてくれない。

<11月23日>

毎日のように少しずつ新規加入の人に応募する段階になっているが、既に330人に断られて、マガジンのネタとしては面白いかも知れないが、プライドもなにももうガタガタかも知れない。これがネット婚活の怖いところかも知れない。だが、小選挙区制度と同じで、少しの違いで落ちていると思いたいが、女性の側が理想が高すぎるのが原因だろう。としておもしろくない。

<11月24日>

休日の朝から、3つの婚活グループの中の一つは、今月の応募件数いっぱいまで応募してしまった。月に200人応募したことになる。こうした事もよく考えるとなんか変で、ある程度妥協も含めて、一体一の特定見合いのほうが効率的な気がするのだが、自由なほど実力のある人が有利になるとつくづく思う。しかしどうしてこんなに美人で欠点がないように思える人たちが大勢婚活に登録しているのか落ち込んでしまうほどである。男性も社会的能力のすごい人は大勢いるのだろうが、女性のほうが私より年収から能力まですべてに勝っているような人がうじゃうじゃいて、とても応募さえ躊躇してできない人も大勢いる。社会の中の位置にがっかりきてしまうこともある。それでもなんだかほっとするような人に応募しても、返事が来ないのである。これが人によって大きく違って、何十人も返事が来る人もいるのかも知れないが、私自身の立ち位置の詳細はここには書けない面もあるとしても、あまりに難しい条件の人には婚活さえ難しい。とはいえ、職場その他で告白できない私の勇気の無さなのか、だから婚活に応募したのである。応募できるだけでもありがたく思うしかないのかも知れない。応募する女性さえいないならそれは不可能ということなのだから。